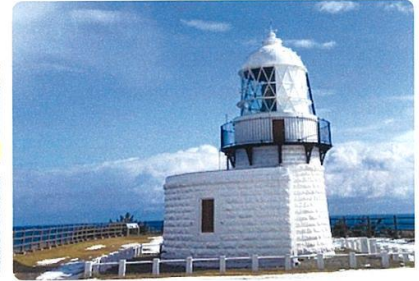
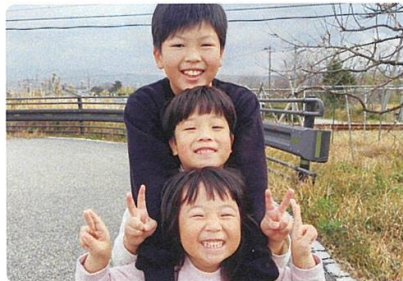
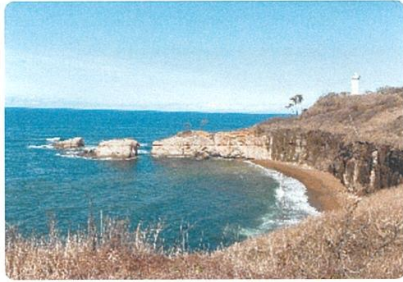


令和4・5年度
石川県社会教育委員の
会議のまとめ

人と地域の ウェルビーイングの 実現をめざして

つながりが紡ぐ
社会教育の在り方について



I. 石川県社会教育委員の令和4・5年度の会議について

1 社会教育をめぐる現状・課題

- 人口減少、少子高齢化、核家族化、未婚化・晩婚化、これらを背景とした単身世帯や単身高齢者の増加といった社会環境の劇的な変化が進み、地域社会を支える地縁・血縁といった人と人との関係性や「つながり」が希薄化
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、それまでの社会環境の変化等をもたらした社会において内在していた孤独・孤立の問題を顕在化
- 未来志向で「こうありたい自分、こうありたい地域の姿」を住民自治の観点から考え、そのために必要な学びとその成果が循環する社会教育を基盤とした地域コミュニティの形成により、様々な課題が深刻な問題となる前に地域で解決されることを期待

○生涯学習を通じた個人の成長と、持続的な地域コミュニティを支える社会教育は、ウェルビーイングの実現に密接不可分

ウェルビーイングの実現	
ウェルビーイング：「個人」の幸せ＋周囲の「場」のよい状態	
〈生涯学習〉 「個人」の生涯にわたる自己実現を図る学習	〈社会教育〉 学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」
生涯学習を通じた個人の成長と、持続的な地域コミュニティを支える社会教育は、ウェルビーイングの実現に密接不可分	

(出典：第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理(素案)～全ての人のウェルビーイングの実現に向けて、共に学び、支えあう生涯学習・社会教育～ 令和4年7月より抜粋)

2 テーマ

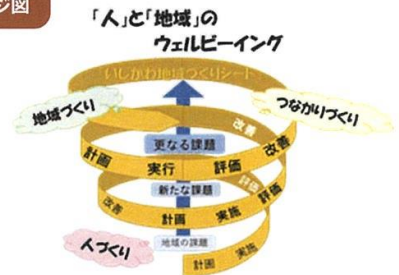
人と地域のウェルビーイングの実現をめざして ～つながりが紡ぐ社会教育の在り方について～

〈設定の理由〉学びを通じた人と人とのつながり・絆の深まりが、誰一人として取り残すことのない社会的包摂の実現とそれを支える地域コミュニティの基盤の安定に重要

3 仮説

- ①地域住民が地域課題の解決に向けてプロセスとゴールを共有し、持続可能な取り組みを進める。
- ②その手法の一つが「いしかわ地域づくりシート」であり、地域づくりを見える化するシートである。シートを活用することで、人づくり、つながりづくり、地域づくりの好循環が期待される。
「いしかわ地域づくりシート」について
(地域分析シートと企画シート「コデルCoDeL」)
- ③さらに課題解決のプロセスを繰り返すことで、人と地域のウェルビーイングにつながるのではないか。

イメージ図



4 取組

- (1) 市町生涯学習・社会教育担当職員向けの研修の機会を利用し、「いしかわ地域づくりシート」の普及・啓発に努める
- (2) 地域住民向けの講座で「いしかわ地域づくりシート」を活用し、社会教育における地域づくりの手法を学ぶことをサポートする
- (3) 「いしかわ地域づくりシート」を活用し、計画した事業が推進された結果として、「人」と「地域」のウェルビーイングにつながっているかを社会教育委員の会議で協議する

Ⅱ. 石川県社会教育委員の会議 令和4・5年度の歩み

5 経過

令和4年度

第1回

令和4年9月2日(金)
協議題の説明と講義

講義

「コデル (CoDeL) シート」と
ウェルビーイングとの連関
金沢大学名誉教授 浅野 秀重 氏

県民や地域の幸福をめざした施策を進めるにあたり、社会教育は地域のヒト・モノ・コトをつなぐハブとしての役割や、地域住民をはじめ、町内会等の地縁組織、NPO法人や学校などの地域活動団体等をつなぐ役割がある。そして、「いしかわ地域づくりシート」の中で事業の企画を担う「コデルシート」がもつ「地域住民の学習を支援する」側面が、人のウェルビーイングへつながる。

第2回

令和4年11月28日(月)
持続可能な地域づくりについての講義

講義

人が変わり地域・社会が変わる“深い”SDGs
の実践
～ウェルビーイングを基軸とした教育 (ESD) の可能性～
岡山大学学術研究院教育学域・ESD協働推進センター
助教 柴川 弘子 氏

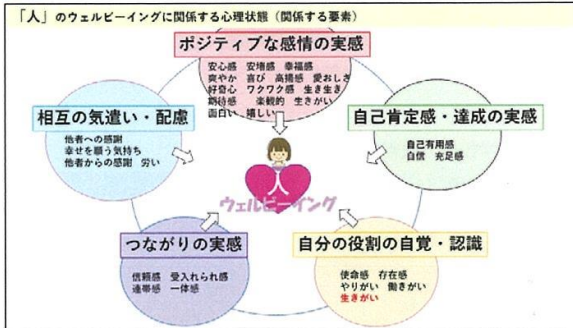
社会教育におけるつながりをいかにして紡いでいくか。中学生を地域のミドルリーダーとして、防災キャンプ等に参画させた取組が地域社会により影響を与え、若い世代へとその姿勢が受け継がれていく実践例をもとに、持続可能な地域づくりについて示唆をいただく。

第3回

令和5年1月25日(水)
「人」のウェルビーイングの実現について

協議

「人」のウェルビーイングに関係する「心理」について



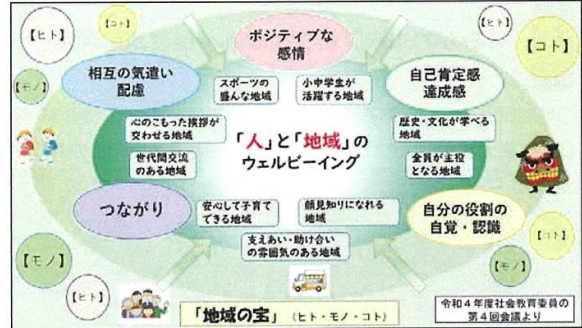
- ・大人は、地域の伝統芸能などを通じて、子供たちをまとめることに達成感を感じていると思う。
- ・PTA活動における、大人の成長だとか、その成長を促す機会、場の提供というのは、私たちの喜びだったりするところがある。
- ・人にはそれぞれすごい好奇心がある、そういう好奇心があって目標設定をし、そしてそれを学ぶというプロセスの中で、達成感を得られる。

第4回

令和5年3月22日(水)
「地域」のウェルビーイングの実現について

協議

「人」のウェルビーイングにつながる「地域」について



- ・子供たちの安全・安心のため、登下校時に見守り活動している地域。
- ・人が集まる機会や気軽に集える場がある地域。
- ・住民との協働活動の重視、支え合い・助け合いの雰囲気のある地域。
- ・地域の歴史、伝統、文化が伝承され、地域に愛着がもてるような地域。

令和4年度の協議から見てきたもの

「人」のウェルビーイングにつながる心理が5つに分類された。その心理状態につながる理想とする「地域」像について意見を出し合う。次年度は、具体的事例をとおして、ウェルビーイングにつながる可能性について検証していく。

令和5年度の実践の方向性

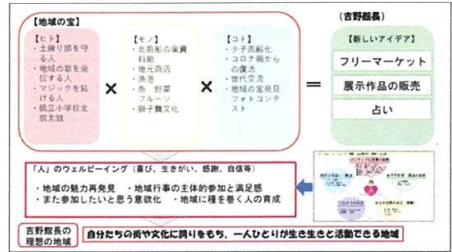
公民館や地域活動団体が「いしかわ地域づくりシート」を活用し、計画した事業を推進した具体例をもとに、「人」と「地域」のウェルビーイングにどうつながっていくか、石川県社会教育委員の会議で協議していく。

第1回 令和5年8月8日(火)
橋立地区会館の取組事例について



報告 ①県における「いしかわ地域づくりシート」の普及・啓発の取組 事務局
②地域の魅力再発見で幸せを 加賀市橋立地区公民館長 吉野 裕之 氏

- 橋立地区公民館の取組から、地域の宝を活かしてどのような活動が考えられるか。また、誰のどのようなウェルビーイングにつながる可能性があるかを協議。
 - ・子供たちが地域の宝。地域の伝統である獅子舞を活かし、船上から祭りばやしが入り込めたらおもしろいイベントになる。そんな経験をした子供たちが成長し、いつかふるさとを大切に育む姿につながるのではないかな。
 - ・橋立の文化、歴史建造物を活かし、高齢者が次世代に魅力を伝える機会を設け、それを子供たちが、子供たちの目線で地域の魅力発信ができることよ。



第2回 令和5年11月17日(金)
みかわ未来プロジェクトの取組事例等について

報告 1 「はしたてフェスタ」の様子について 加賀市橋立地区公民館長 吉野 裕之 氏

- 地域住民が「いしかわ地域づくりシート」を使って企画し、石川県社会教育委員の会議からの意見も活かしながら、「はしたてフェスタ」を開催。
 - ・「いしかわ地域づくりシート」を使って企画したことが、新しい模擬店や催しにつながった。新しいことに取組み、いろんな人が輝くフェスタにすることができた。



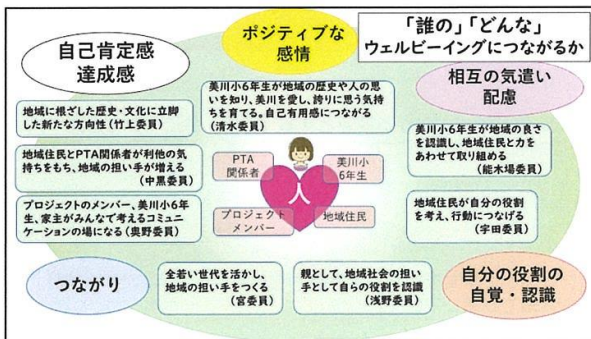
報告 2 「みかわ未来プロジェクト～空き家の利用～」について 美川まちづくり協議会事務局長 二口 伸也 氏
白山市立美川小学校長 清水 由美子 氏

- 地域課題の一つである「空き家問題」に対する取組の経緯を報告。
- 6年生児童が地域住民の一人として、空き家活用についての提言を行ったか学校側の取組を報告。



第3回 令和6年1月末
「みかわ未来プロジェクト」について

協議 みかわ未来プロジェクトの地域づくりシートを活用した事例は 誰の、どんなウェルビーイングにつながるか



第4回 令和6年3月21日(木)
令和4・5年度のまとめについて

協議 石川県社会教育委員の会議のまとめを作成し 人と地域のウェルビーイングの実現をめざした 社会教育の在り方

- ・「いしかわ地域づくりシート」を使って、地域を分析することが話し合いの土台となり、人や地域の幸せについて考えることが人づくり・つながりづくり・地域づくりの好循環を生むのではないかな。
- ・2年間の協議を経て、この取組が次世代のリーダーを発掘し、育てることにつながると感じた。自分が所属する団体で、今後も「いしかわ地域づくりシート」を活用し、広めていきたい。
- ・公民館活動をきっかけに地域住民につながりが生まれ、普段から幸せを感じられる地域づくりに努めていくことが大切だと考える。

講義 ウェルビーイングと 復興に向けた社会教育によるレジリエンス 金沢大学名誉教授 浅野 秀重 氏

Ⅲ. 社会教育委員の会議を踏まえた県の取組

(1) 県が生涯学習・社会教育担当職員向けの研修の機会を利用し、「いしかわ地域づくりシート」の普及・啓発に努める



■ 県市町社会教育主事等連絡協議会 市町生涯学習担当者基礎研修



市町の担当者に県の取組やシートの活用方法について説明するとともに、普及・啓発の協力を依頼

R4.5.19、R5.5.1 会場：石川県庁

■ 市町公民館職員基礎研修・専門研修



公民館長・主事等に県の取組やシートの活用方法について説明するとともに、参加者が各公民館の事業に活かすよう啓発

R4.7.11、R5.7.6 公民館職員基礎研修 会場：県生涯学習センター
R4.8.18、R5.8.28 公民館職員専門研修

■ 公民館主事等研修



市町からの依頼を受け、県職員がシートの活用方法について説明するとともに、各公民館主事が今後の事業に活かすよう啓発

R4.10.11、R5.7.19 輪島市
R5.8.7 加賀市 R5.7.19 金沢市

■ 社会教育委員・ 公民館長主事合同研修会



能登町からの依頼を受け、公民館館長、主事、社会教育委員に県職員がシートの活用について説明するとともに、参加者が能登町の事業に活かすよう啓発

R5.7.26 会場：能登町役場

■ 川北町社会教育委員運営委員会



川北町からの依頼を受け、社会教育委員の運営会議で県職員がシートの活用方法について説明するとともに、参加者が川北町の事業に活かすよう啓発

R5.5.23 会場：川北町文化センター

■ 地域みらい共創ネット



小松市からの依頼を受け、各地区の町づくり協議会の役員に県職員がシートの活用方法について説明するとともに、参加者が今後の事業に活かすよう啓発

R5.11.2 会場：小松市庁舎

■ 県市町社会教育主事等連絡協議会 市町生涯学習担当者基礎研修

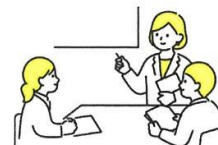


社会教育を通じての「つながりづくり」と、ウェルビーイングが、どう関わっているか社会教育士等の意見を聞く

R5.5.17 第1回、R6.2.2 第2回 会場：石川県庁

参加者の声

- ・見える化するためのシートが興味深かったです。関わる人々が、軸と全体像を共有することで、それぞれが実現に向けて想像力を働かせることができると思います。
- ・個性を生かした様々な取り組みが生まれる可能性があると思いました。支援者側としては、誰が担当になっても取り組みが続くシステムとして大変実用的だと思いました。



(2) 地域住民向けの講座で「いしかわ地域づくりシート」を活用し、社会教育における地域づくりの手法を学ぶことをサポートする

事例1

いしかわの住民による『地域づくり』学び講座in新神田

新神田に住む親子に、もっと地域を知ってもらうための講座。地域分析シートを生かし、さらにフィールドワークを通して地域への理解を深める。講座で作成したシートを次年度の企画に生かす計画。

親子

× 新神田

人と地域の
ウェル
ビーイング

【日時】令和4年10月20日(木)

【会場】金沢市新神田公民館

【対象】新神田地区在住の親子

【ファシリテーター】下口 勲

講
義

「私たちが考える新神田のまちづくり」

講師：金沢大学名誉教授 浅野 秀重 氏

「私たちのウェルビーイング、私たちが住む新神田のウェルビーイングを考えましょう」と提案していただく。



活
動

- ①アイスブレイク「ここはどこかなin新神田」
- ②グループワーク

「地域分析シート」を記入し、ヒト・モノ・コトの視点で地域の宝を探す。地域の宝を活かした「理想の地域像」についてグループで協議。



参加者
の声

新神田のいろんな「ヒト・モノ・コト」を知り、いろんな人と考え、楽しくすることができて、発見したこと、考えたことを思い出しながら学んで、知識を身に付けていきたいです。

事例2

女性による『地域づくり』学び講座in橋立

橋立地区では、まちづくりに女性の意見を取り入れることで、新しい地域づくりを目指し、住民が気軽に話ができる「しゃべり場」を企画。そのきっかけづくりとして地域分析シートを活用。

親子

× 橋立

人と地域の
ウェル
ビーイング

日時】令和4年12月16日(金)

【会場】橋立地区会館

【対象】橋立地区在住の女性

【ファシリテーター】下口 勲

※第2回は悪天候のため中止

【第1回しゃべり場】グループワーク

「地域分析シート」を記載し、地区会館で行いたい企画についてグループで協議。



【第3回しゃべり場】フェスタの企画を考えてみよう

個人で記入し、集計したグラフをもとに交流し、ワークシートで具体的な企画を考える。



参加者
の声

自分の住む地域に良いものがたくさんあり、それを活用して楽しいイベントが開催できるかも！という期待感が持てた。地域を大切にする、地域の人々を幸せにする、そのためには具体的に何ができるのか、考えるきっかけとなりました。

(3) 「いしかわ地域づくりシート」を活用し、計画した事業が推進された結果として、「人」と「地域」のウェルビーイングにつながっているかを社会教育委員で協議する



公民館活動によるウェルビーイングの可能性

課題

コロナ禍のため公民館活動が制限され、地域の交流の場や一体感が喪失し、住民同士の関係が希薄となってきた。

企画名

「地域の魅力再発見で幸せを」

自分たちの街や文化に誇りをもち、一人ひとりが生き生きと活動できる地域をめざして

住民

橋立
公民館

人と地域の
ウェル
ビーイング

加賀市立橋立地区公民館
館長 吉野 裕之 氏



企画会議

地域の宝を発見

ヒト

- ・海の恵に感謝し、自然を大切にす
る住民
- ・地元の青年団 小中学生

モノ

- ・北前船資料館 ・海水浴場
- ・豊富な海産物、フルーツ
- ・柿の葉寿司等の伝統料理

コト

- ・獅子舞や祭り等の伝統文化
- ・内灘から住民が移り住んだ歴史

企画会議

「いしかわ地域づくりシート」を使った企画

準備会 5回

誰もが楽しめるよう、アイデアを出し合い、SNSで発信

フォトコンテストの開催 2022・2023

「わが町再発見」をテーマに地域の宝を写真におさめる。入賞作品をカレンダーにして全戸に配布することで新たな話題作りにつなげる。

はしたてフェスタの開催

当日は約500名の住民が参集。地元食材を活かした出店や模擬店、農産物等を販売。その他団体発表、抽選会を実施した。



公民館の活動がもつウェルビーイングの可能性

「人」のウェルビーイング

- ・地域の魅力再発見
- ・地域行事の主体的参加と満足感
- ・また参加したいと思う意欲化
- ・地域に種を巻く人の育成

「地域」のウェルビーイング

自分たちの街や文化に誇りをもち、一人ひとりが生き生きと活動できる地域

学校と地域との連携によるウェルビーイングの可能性

課題

美川地区の課題の一つである「空き家」問題。その解決のために、地域コミュニティを活かし、継続した運営ができるようにしたい。

企画名

「笑顔で永く住み続けられるまちづくりをめざして」

自分たちの街や文化に誇りをもち、一人ひとりが生き生きと活動できる地域をめざして

美川小学校
6年生

×

美川
まちづくり
協議会

×

人と地域の
ウェル
ビーイング

美川まちづくり協議会事務局長 二口 伸也 氏
白山市立美川小学校長 清水 由美子 氏



「第1回みかわまちづくりカフェ」

金沢大学准教授 篠田隆行氏を核に住民の話し合いの中で、美川の課題「空き家問題」が明確になる。

美川まちづくり協議会設置

「第2回みかわまちづくりカフェ」

美川小公開授業日に6年生が「空き家の活用」方法について提言。

みかわ未来プロジェクトの立ち上げ

地域課題の解決に向け、住民全員が丸となって地域の未来を考えるプロジェクトを企画。

「第3回みかわまちづくりカフェ」

空き家の具体的な利用方法について6年生が提言。

問題提起

提言発表



提言発表

美川小学校にコミュニティ・スクール設置

美川小6年生に地域課題を提起

篠田氏が、総合的な学習の時間に、地域に空き家の現状や活用方法等について6年生の意見を聞く。



美川小6年生が空き家の町屋見学

地域住民から空き家の無償提供を受ける。6年生とプロジェクトメンバーが見学し、具体策について検討。

「地域の宝」を発見

ヒト

- ・美川まちづくり協議会
- ・美川小6年生と保護者
- ・地域住民

モノ

- ・空き家になっている町屋
- ・温泉 ・伏流水
- ・美川小CSと地域学校協働活動推進

コト

- ・美川おかえり祭り
- ・北前船寄港地 ・船主集落
- ・白山手取川ジオパーク

学校と地域の連携がもつウェルビーイングの可能性

「人」のウェルビーイング

- ・地域の魅力を再発見
- ・住民が地域における自分の役割を認識
- ・地域コミュニティの活性化
- ・地域の担い手の育成

「地域」のウェルビーイング

美川を愛する心を養い、住民みんなの力で子供たちの成長を支えられる地域